

## 高校始業式 校長あいさつ(2023年9月2日)

1つは「自分らしく」いられることの大事さです。私はこの夏『怪物』という映画を2回観て同僚や知人と語り合いました。子どものウソがきっかけで事件が起こり大人の心の中のゾンビが心ない言葉を発しすれ違えます。1回目は自然と子ども目線で見、2回目は「お母さんもたまらないなあ」と親の辛さに共感しました。永山瑛太さん演じる小学校教師が子ども達からのシグナルに気づき、ウソの背景がわかる場面から空気が変わります。不協和音が美しいピアノの音色に変わるところで希望を感じました。本当のことは色んな視点でじっくり見ないと見えない、ということが1番の感想です。誰が誰を好きになってもよいということも描かれていました。ところで、8月10日ジェンダー平等に関する三付属校の研修があり、本校から蛭田絹子先生が、生徒会執行部のヒヤリング内容を生徒の声としてまとめ、本校の課題について発表してくださいました。生徒・保護者・教職員共同で学び、鈴掛祭も自分らしくいられる行事にしましょう。

2つ目は平和に関しても若い人の声が希望ということです。広島・長崎への原爆投下から78年のこの夏、核使用の危険が高まってしまいました。被爆者の1人サーロー節子さんは、母校の広島女学院中高で講演し、生徒達の感想文1枚1枚に目を通して涙し被爆者に希望を与えてくれるのは世界の若い人の存在だと述べました。「よく日本の大人たちは『今の若い人達は毎日、楽しく暮らしていて、戦争のことなんか考えない』といます。何度聞いたことでしょう。でもそれは、大きな間違いです。感想文からは若い人が平和や自分がどう生きるかについて真剣に考えていることが伝わってきました。」と発言しました。大切なのは「気づき」を話題にすることです。意識高い系と言われると躊躇いがあるだろうけれど、原発処理水放出、気候危機など何でもよいので隣の人と会話しましょう。会話すれば考え、それが平和に繋がります。「自分らしく」「平和」についてお話ししました。